

H26 小さなビジネス一覧表

H27.2.12 計画推進課

地域名	NO	市町村(地区)	取組みの概要(主要商品等)	取組主体	集活センター	地域AP	地域名	NO	市町村(地区)	取組みの概要(主要商品等)	取組主体	集活センター	地域AP
安芸	1	室戸市 中の川・中尾地区	葉ゴボウ等の加工品	黒見・中の川・崎山・中尾地区の農家	☆	☆	高幡	1	須崎市 大間地区	手づくりすき味噌	JA土佐くろしお女性部		○ NO.47
	2	室戸市 崎山地区	室戸椿美髪ミスト	室戸市 崎山常会(製造:樹ミュージ)	☆	☆		2	中土佐町 大野見地区	七面鳥	大野見七面鳥生産組合		
	3	室戸市	水産物加工物	(一社)うみ路	—	☆		3	梶原町 初瀬地区	鷹取キムチ、鷹取ドレッシング、焼肉のタレ	鷹取キムチの里づくり実行委員会	◎	○ NO.35
	4	室戸市 黒見地区	深層水米	黒見地区の農家	☆	☆		4	津野町 郷地区	地域の産品を使った加工品	郷地区活性化検討委員会	○	
	5	安芸市 東川地区	入河内大根	入河内大根のこそう会	◎	○ NO.13		5	津野町 久保川地区	味噌、焼肉のたれ、田舎寿司	久保川生活改善グループ	☆	
	6	安芸市 畑山地区	土佐ジローの燻製、肉	(有)はたやま夢楽	☆	○ NO.13		6	津野町 船戸地区	パンビュッフェ 惣菜等の配食サービス	せいらんの里(堂好海せいらん)	☆	
	7	東洋町 野根地区	鮮魚、水産加工品	マルキョウ水産	☆	☆		7	四万十町 平串	ブルーベリージャム、シロップ	(株)サンビレッジ 四万十	☆	○ NO.9
	8	田野町 大野地区	農畜産物の加工品	大野倶楽部	☆	○ NO.29		8	四万十町 本堂・地吉	四万十しょうがのあまからに	四万十さいあい五緑の会		○ NO.15
	9	安田町 中山地区	自然薯	地元農家(5戸程度)	◎	○ NO.32		9	四万十町 榑山	ときめき味噌	JA四万十女性部・ときめき家		○ NO.10
	10	北川村 中部地区	地元産品等の直販	北川村中部地区集落活動協議会	○	○ NO.33		10	四万十町 大正江師	なめらかプリン、米粉シフォンケーキ	(株)エコロギー-四万十		
物部川	1	南国市 福生	びわ葉茶	福生びわ研究会	◎	○ NO.14		11	四万十町 地吉	くびつたけ、生姜の甘辛煮など	五緑の会		○ NO.15
	2	南国市 白木谷	乾燥たけのこ	白木谷ゆめクラブ	☆	○ NO.14		12	四万十町 十和地区	からいジャン、しいたけコロッケ	(株)十和おかみさん市加工部		
	3	香美市 物部町大橋	ゆず皮加工品	奥ものべじばばあんぜんかい		○ NO.15		13	四万十町 十和地区	しまんと新聞ぱっぐ	NPO法人RIVER		
	4	香南市 香我美町西川	生姜等加工品	西川地区集落活動センター推進協議会	◎		1	宿毛市 中角	米の生産販売	農事組合法人ファームなかつの		☆	
高知市	1	高知市 土佐山中川地区	地元農産物の加工及び販売	(有)中川開発	☆		2	宿毛市 沿岸部	魚のすり身天ぷら、キビナゴ天	すくも湾漁協女性部ほか	☆		
	2	高知市 鏡吉原地区	地域の特産品の販売	吉原ふれあいグループ			3	土佐清水市 三崎	「芋餅」の加工販売	JA高知はた三崎支所女性部	☆		
	3	高知市 鏡地区	猪の食肉処理及び販売	高知県中央地区猟友会			4	土佐清水市 松尾	ツツブキの葉押し寿司	松尾さえずり会			
嶺北	1	本山町 沢ヶ内	しそジュース	汗見川生活改善グループ	◎	○ NO.28	5	土佐清水市 立石	笹の葉を使った器、きし豆茶	(株)山和淡水	☆		
	2	大豊町 八川	碁石茶おかし 碁石茶あられ	八川地区住民		○ NO.5	6	土佐清水市 大岐	手づくりみそ	大岐はまぐり会	☆		
	3	土佐町 石原地区	さめうら漬け 力漬け	西石原生活改善グループ	◎		7	四万十市 西土佐口屋内	農家レストラン「しやえんじり」	しやえんじり	☆		
	4	大川村	どんぐりのせんべい	大川村ふるさとむら公社			8	四万十市 東富山	コンニャク、干しシイタケ、ひが	東富山を守る会	☆		
仁淀川	1	いの町 上八川	棚田みそ、棚田育塩麴、農家レストラン等	なつめの木	☆	☆	9	四万十市 三つ又	地元ゆずの加工品製造販売	三つ又ゆず加工グループ	☆		
	2	いの町 上八川	ゆず味噌 珍味こんにやく	木の瀬生活改善グループ	☆	☆	10	四万十市 西土佐江川中組	手づくりの「伝統豆腐」	西土佐中組「絆の会」			
	3	仁淀川町 沢渡	沢渡の茶大福	瀬ビバ沢渡	☆	○ NO.1	11	大月町 安満地	魚のすり身天ぷら	満天クラブ			
	4	仁淀川町 別枝	いりもち	秋葉生活改善グループ	☆	☆	12	大月町 柏島	魚のすり身天ぷら・コロッケ	柏島女性加工クラブ(漁協女性部)			
	5	仁淀川町 上名野川	よもぎまんじゅう アメゴの塩焼き等	上名野川生産加工グループ	☆	☆	13	三原村 下長谷、上長谷、狼内、下切、宮ノ川	どぶろく	どぶろく組合	☆		
						14	三原村 袖ノ木	三原硯	三原硯石加工生産組合	☆			
						15	黒潮町 佐賀	潮風みかん	森本みかん園				
						16	黒潮町 加持川	米あめ	ともこ工房	◎			
						17	黒潮町 浮瀬	カツオギョウザ	千鳥ヶ浜工房				
						18	黒潮町 佐賀	カツオのワラ焼き たたき	漁協女性部		○ NO.35		
						19	黒潮町 佐賀	小魚の加工品	土佐佐賀くろしお工房				
						計	58件						

【分類】 集活センター : ◎=取組み中 ○=取組み予定 ☆=今後可能性あり

地域AP : ○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

：平成26年度 新規案件

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【安芸地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
1	室戸市 中の川・中尾地区	葉ゴボウ、柑橘、茶、梅、ニンニク、ラッキョウ、さつま芋、マコモダケ、キシマメ、イタドリ、かんぱ餅、ミシマサイコ 及び その加工品	黒見・中の川・崎山・中尾地区の農家	それぞれの農家で農産物やその加工品を生産、キラメッセの直販市「楽市」に出荷し、「楽市」では、店頭販売するほか、東京(むらからまちから館、土佐の高知)や大阪(とさ千里)にも出荷・販売している。しかし、夏場の農産物が不足しがちなことや品揃えが十分でないほか、取引先からの要望に品目や量の面で応えきれていない現状にある。	☆	☆	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産している農家の意欲を高めるほか、新たな生産者の参入を促し、栽培品目や生産量の拡大を目指す。</li> <li>椿油については、商品のブラッシュアップを行いながら、販路開拓を行い、生産拡大を目指す。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>労働力の減少</li> <li>生産者の意欲</li> </ul>	<p>【支援の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在は地域おこし協力隊が中心となり、関係機関(農業振興センター、保健所等)とも連携し、各集落の支援にあたっている。</li> <li>必要に応じ、地域づくり補助金の活用や取組みに関わるセミナー・講座・アドバイザーの紹介等の支援を行っている。</li> </ul> <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年度に各地区のロゴマークを作成し、特産品や加工品の地域ブランド化を図った。(中の川)</li> <li>ミシマサイコを1反栽培。種約15.5kg、根約7kgを収穫(共に6500円/kgで越知町のヒューマンライフ土佐が買取。2月16日に出荷予定。)</li> <li>平成26年2月からティーバックのきしまめ茶の販売開始。</li> <li>中尾:牧場でインターンシップ等の受入を実施中。</li> <li>崎山:かんぱもちとひがしやまを試作中。</li> </ul>
2	室戸市 崎山地区	室戸椿美髪ミスト	室戸市 崎山常会 (製造:㈱ミュージ)	室戸市の崎山台地では、風除けの垣根として椿を植えている。その椿の実を手作業で絞った椿油に海洋深層水を加え、髪と地肌が潤うスプレータイプ的美髪ミストを開発し、販売を開始している。この商品開発に対し、地域づくり補助金で支援を行った。企画販売は崎山地区の住民の集まりである崎山常会。製造は室戸市の㈱ミュージ。現在は、楽市と室戸市役所で販売しているが、今後、てんこすや県庁生協、東部地域の道の駅や海の駅でも販売していく計画。	☆	☆	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原料である椿の実、地域に豊富にあることや、製造業者の能力にも余裕があることから、販売状況による事業規模拡大の可能性は十分にある。</li> <li>そのため、商品のブラッシュアップを行いながら、販売量や販路の開拓を積極的に行い、生産拡大を目指す。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産者の意欲</li> </ul>	<p>【支援の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新商品の開発の検討や、販路開拓の支援。</li> </ul> <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>椿油を使用した美髪ミストを開発し、楽市と室戸市役所売店において平成25年12月下旬から販売を開始。現在は室戸市観光協会や高知県庁生協等の合計6店舗で販売中。初回製造分320本が間もなく完売見込みのため、追加発注(640本)した。</li> <li>発売からの販売数:336本(H27.1.22現在)</li> </ul>
3	室戸市	室戸の水産物等を活用した商品開発	(一社)うみ路	平成23年、室戸市高岡地区において地域住民が主体となり、水産加工物の開発を行うための協議会を発足し、メジカ(ソウダガツオ)のコンフィを開発。その活動に携わっていた大学生が中心となり、平成25年に一般社団法人を設立し、製造・販売を行っている。製造には協議会メンバーであった地域住民約4名が雇用され従事している。	-	☆	<p>【取組の方向・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メジカのコンフィは毎月約400袋を製造(350円/袋 120g)しているが、宿泊施設の加工場を間借りして製造しており、供給が追い付いていないため、加工場の整備が課題である。</li> <li>25年度末には自社養殖場が完成し、アワビ等を養殖できる体制が整ったため、今後は新商品の開発や販路拡大に取り組む。</li> </ul>	<p>【支援の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>H25.2 産業振興アドバイザー制度を活用(商品開発・販路拡大及びパッケージデザインについてのアドバイザー派遣)</li> <li>H26.8 産業振興アドバイザー制度を活用(養殖アワビ等を使った商品開発)</li> </ul> <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商品の開発</li> <li>テストマーケティング実施協力店及び販路の開拓・確保</li> <li>養殖のアオノリについて、乾燥アオノリのみを販売していたが、生食での販売のアドバイスをいただき、営業活動を行った結果、東京都内の飲食店への販路が開拓できた。</li> </ul>

乙

## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【安芸地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
4	室戸市 黒見地区	黒見のダイヤモンド(深層水米)	黒見地区の農家	黒見の寒暖差に目し、地域おこし協力隊も関わりながら、室戸海洋深層水濃縮ミネラル液を使用した米を生産し、販売を行った。この商品化(パッケージ)に対し、地域づくり補助金で支援を行った。	☆	☆	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年度は、試験的な取り組みであったため、400kgの販売であったが、順調に完売したため、来年度以降は栽培面積を増やしていく計画。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産者の意欲</li> <li>ブランド化に向けた取組み</li> </ul>	<p>【支援の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>H26地域づくり支援事業補助金(小さなビジネス)の申請に関する支援。</li> <li>販路開拓に関する支援。</li> </ul> <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>室戸海洋深層水濃縮ミネラル液を使用した米「黒見のダイヤモンド」を栽培。築市において、1袋2kg入り980円で約200袋を販売し、完売。</li> <li>〈取り組んだ農家〉平成25年度:1名(10反) 平成26年度:3名(15反)</li> <li>H26地域づくり支援事業補助金(小さなビジネス)を活用して室戸海洋深層水濃縮ミネラル液を散布するための噴霧器を購入(H26.12)。H27.3~使用予定。</li> <li>県庁生協店頭で300袋完売。(H26.9)</li> </ul>
5	安芸市 東川地区	入河内大根	入河内大根のこそう会	地域の特産品として集落あげでの取り組み。地元で期間限定の入河内大根定食として提供するほか、高知生協など高知市地域へも販売している。また、漬物などの加工品の販売も検討している。	◎	○ (NO.13)	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入河内大根の種を、東川地域の方に配布し、栽培面積の拡大を図る。</li> <li>加工品開発により付加価値を向上させる。(漬物の商品開発を目指しており、高知県工業技術センター職員による調理・衛生指導を受ける予定(2月2日予定))。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>労働力の減少</li> <li>生産者の意欲</li> </ul>	<p>【支援の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集落活動センター「かまん東川」の地域おこし協力隊が「入河内大根をのこそう会」の運営、入河内大根の収穫、出荷等について支援を行っている。</li> <li>必要に応じ、関係機関へのつなぎ等支援を行っている。(高知県工業技術センターへのつなぎ)</li> </ul> <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高知パレスホテルのレストランでの「郷土料理を楽しむ会」・はるのハーベストへの食材提供を行った。</li> </ul>
6	安芸市 畑山地区	土佐ジローの燻製、肉	(有)はたやま夢楽	飼育は、オス5000羽、メス600羽で卵240個/日、処理数700羽/月。販売額は年2900万円。テレビ放映もあり需要は高まっているが、ヒナ不足などにより飼育数を増やせない状況。	☆	○ (NO.13)	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>別法人である「土佐アグリード」始動による、ひな生産体制の確立</li> <li>加工品製造も含めた販売の強化とコスト削減による経営改善</li> <li>飼育施設の拡張(新施設の建設を計画中)</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>販売力の強化</li> <li>加工品の開発、販売</li> <li>臭気対策</li> </ul>	<p>【支援の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農林水産物直販所支援事業を活用(加工商品の開発・改良についてのアドバイザー派遣)</li> <li>畜産課が土佐ジローの生肉等の販売について支援を行っている。</li> <li>新規研修生1名の受け入れ(新規就農研修支援事業を活用し、平成26年9月から受け入れ)</li> <li>パンフレットの作成(小規模事業者持続化補助金活用)</li> <li>必要に応じ、関係機関へのつなぎ等支援を行っている。</li> </ul> <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加工品「土佐ジローのガラスープ」の改良を行った。(平均して月に160個製造)</li> </ul>

## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【安芸地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
7	東洋町野根地区	鮮魚、水産加工品	マルキョウ水産	市場動向や漁獲量により、販売価格が大幅な安値になることがあることや、安値でしか取引されない魚種もあることから、漁業者自らが加工販売することで、付加価値向上と安定的な売上げを確保する取組みを行うことになった。そのため、25年11月に団体を立ち上げ、野根の大敷で獲れる魚のブランド化を目指している。その最初の具体的な取組みとして、1月にオープンした「海の駅東洋町」で、鮮魚や刺身、干物の販売を行っている。	☆	☆	【取組の方向】 ・広域的な流通が可能な加工品の開発・商品化 ・お土産や贈答用のセット販売 ・高知県内での販路開拓(とりあえず高知市でのイベントへ参加など) ・オーナー制による獲れたて鮮魚の販売、網元直営居酒屋など  【課題】 ・始めたばかりで実績がない。 ・加工場の整備や乾燥機、冷蔵設備の導入	【支援の状況】 ・情報提供。 ・取組状況の確認と支援策の検討。 ・eコマースサイト「高知家のええもん屋」への掲載応募支援  【成果等】 ・H26地域づくり支援事業補助金(小さなビジネス)を活用して恒温高湿庫等の購入。今後は干物や燻製等の加工品の製造・販売を強化する。 ・海の駅東洋町での販売実績は好調。 ・「高知家のええもん屋」へ「厳選！旬の土佐干物詰合せ」H27.2掲載予定。
8	田野町 大野地区	地元の農畜産物を使った加工品	大野倶楽部	APで取組んでいる農業体験メニューの開発や交流人口の拡大にあわせ、地元の農畜産物(ジャガイモ、カボチャ、オクラ、和牛、乳牛)を活用した加工品開発に取り組んでいる。	☆	○ (NO.29)	【取組の方向】 ・地域の実践者を増やす。 ・地域産物を使った商品開発  【課題】 ・ビジネスに対する意欲 ・加工品の開発	【支援の状況】 大野倶楽部の女性部と地域おこし協力隊、町及び県での協議の場づくり(今後の取り組みに関する検討、県の支援策に関する情報提供など) 視察研修やイベントへの出展等の取り組みを支援  【成果等】 菓子等の販売(道の駅)※諸事情によりH26.5から休止中 交流イベントの開催
9	安田町 中山地区	自然薯	地元農家 (5戸程度)	地域の特産品として生産されてきたが、新規参入者もなく、生産者数の減少と高齢化が顕著になっている。24年度で、出荷戸数9戸、栽培面積80a、売上金額4,500千円。	◎	○ (NO.32)	【取組の方向】 ・本年度開設した集落活動センターと連携した経済活動として、生産体制の強化と付加価値の向上に取り組んでいく。  【課題】 ・労働力の減少 ・生産者の意欲 ・加工品の開発	【支援の状況】 中山地区における生産拡大に関する支援(町単補助等) 山いもまつりの企画と開催に関する支援 自然薯を活用した加工品の開発に関する検討 耕作放棄地整備のため、H27地域づくり支援事業費補助金(小さなビジネス)の申請に向けて検討中。  【成果等】 ・集落活動センターとして整備された旧中山小中学校を会場に山いもまつりを開催 ・H26年度、集落活動センター及び高知大学と連携し、地域住民協働で試験栽培(2畝)、収穫までを実施。H27年度に栽培面積拡大を検討中。

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり

地域APの位置づけ: ○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【安芸地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
10	北川村 中部地区	地元産品等の直販	北川村中部地区 集落活動協議会	平成25年8月から、試験的に北川村温泉ゆずの宿で地元産品を販売する直販市「北川さんちのお台所」を開始。 現在は毎週日曜日の直販市開催の他、冬至期間中の柚子玉販売や、イベントへの出店等を行っている。	○	○ (NO.33)	<b>【取組の方向】</b> ・集落活動センターの立ち上げに向けた協議会の事業の一つとして取り組む。 ・北川村温泉改修後は常設の直販コーナーを設置する。  <b>【課題】</b> ・出品者の確保 ・生産者の高齢化	<b>【支援の状況】</b> ・直販市開始に向けた表示・許可関係の確認 ・地元生産者と温泉との直販体制の整備に対する支援  <b>【成果等】</b> ・H25年度 23回開催、売上 141千円 ・H26年度 36回開催、売上 96千円(12月末)

## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【物部川地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
1	南国市 稲生	「びわ葉茶」の製造販売	稲生びわ研究会	<p>稲生は、びわの産地であり、平成21年2月に地域の者で研究会を立ち上げ、そのびわを使った商品の開発・製造をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究会の構成: 22名</li> <li>びわ葉茶: 通年月2回(約100袋: 50g/袋)製造</li> <li>ティーパック(3g・10袋入り)の商品化に向けた取組</li> </ul>	◎	○ (NO.14)	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○製造工程の見直しを行い、量、質の安定化を図る。</li> <li>○販路を拡大する。</li> <li>◆研修等への参加を促すとともに補助金等の情報を提供する。</li> <li>◆直販所や量販店への橋渡しを行う。</li> <li>◆販路拡大につながる情報の提供等、事業主体の取組を支援していく。</li> <li>○◆商品ブラッシュアップの支援</li> </ul> <p>【課題】</p> <p>&lt;H25年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産方法の改善</li> <li>・加工機の不足</li> <li>・パッケージのブラッシュアップ</li> </ul> <p>&lt;H26年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産体制の整備</li> <li>・加工機の不足</li> <li>・人手不足</li> <li>・生産工程の調整</li> </ul>	<p>【支援の状況】</p> <p>&lt;H25年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品表示に関するアドバイスを県食品産業協議会に依頼</li> <li>・ティーパックの商品化を提案</li> <li>・県ふるさと寄付金の記念品追加への申し込み(ビワの種酒)</li> </ul> <p>&lt;H26年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ティーパックの商品化に向け、市地域雇用創出推進協議会と連携した試作品作りを支援</li> <li>・新パッケージ(ティーパック)での生産方法、原価計算等の支援</li> </ul> <p>【成果等】</p> <p>&lt;H25年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新パッケージの案段階で食品表示の問題点が整理された。</li> <li>・ティーパックの商品化に向けた意識合わせができ、試作品作りなどが始まった。</li> <li>・ビワの種酒が県ふるさと寄付金の記念品として追加された(H25のみ)</li> </ul> <p>&lt;H26年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ティーパックの商品化に向けた意識合わせができ、試作品が完成した。</li> <li>・関東高知県人会の大懇親会で500袋の試供品をアンケートと共に配付した(11月14日)。</li> <li>・平成27年1月、直販所にてテストマーケティングを行った。</li> </ul>
2	南国市 白木谷	<p>「乾燥タケノコ」「四方竹の加工品」の製造販売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乾燥タケノコ: 2m位まで伸びたタケノコ(孟宗竹)を、5mm×5cmにカットし、下処理して乾燥したもの。</li> </ul>	白木谷ゆめクラブ	<p>タケノコ農家を中心とするメンバーが集まって、白木谷・八京集落で地域の活性化や竹林の保全のため平成23年4月に設立。H23年5月から製造している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成: 20名(H26.8月末現在)</li> <li>・高知市内の中華料理店や道の駅等へも出荷。</li> </ul>	☆	○ (NO.14)	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○作業工程の見直しや製造機械の効率的な運用を行う。</li> <li>○県内外への販路の拡大を行う。</li> <li>◆研修等への参加を促すとともに補助金等の情報を提供する。</li> <li>◆直販店や量販店への橋渡しを行う。</li> <li>◆販路拡大につながる情報の提供等、事業主体の取組を支援していく。</li> </ul> <p>【課題】</p> <p>&lt;H25年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販路拡大</li> <li>・製造工程の効率的な運用</li> </ul> <p>&lt;H26年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販路拡大</li> <li>・生産拠点の再整備</li> <li>→平成26年8月台風11号の豪雨により生産拠点が被災したため、今後の生産拠点の再整備について協議を行い、取り組む必要がある。</li> <li>・パッケージのブラッシュアップ</li> </ul>	<p>【支援の状況】</p> <p>&lt;H25年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中華料理全国大会開催の情報提供</li> <li>・クリエイター見本市を紹介(パッケージデザイナーとの橋渡し)</li> </ul> <p>&lt;H26年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南国市地域特産品等研究開発事業費補助金申請の支援(パッケージのブラッシュアップ費用)</li> <li>・加工品開発に向けた課題整理(工業技術センターとの橋渡し)</li> <li>・集落営農組織の設立に向けた支援</li> </ul> <p>【成果等】</p> <p>&lt;H25年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中華料理全国大会に参加し、商品をPRLした。</li> </ul> <p>&lt;H26年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南国市地域特産品等研究開発事業費補助金を活用してパッケージのブラッシュアップを行っている。</li> <li>・生産拠点の再整備について、集落営農組織の立ち上げを視野に協議を行っている。</li> </ul>

## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【物部川地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
3	香美市 物部町 大栃	「塩の道マーマレードしおゆず」 「しおゆずおかず」 「しおゆずびーる」 の製造販売	奥ものべ・ じじばあんぜん会	物部町を中心とした住民グループが製造・ 販売を行っており、商品はいずれも、無農薬 (栽培期間中農薬不使用)のゆず皮と田野町 の天日塩「塩二郎」を使用。  【製造】・5～10人が月1回程度作業 【販売】・高知市及びその周辺は月1～2回程 度納品 ・地域イベントに積極的に参加し販売活動		○ (NO.15)	【取組の方向】 ○生産・販売方法の見直しを行い、収益の向上を図る。 ◆研修等への参加を促す。 ◆直販所や量販店への橋渡しを行う。 ◆販路拡大につながる情報の提供等、事業主体の取組 を支援していく。  【課題】 ＜H25年度＞ ・生産・販売方法の改善 ・在庫管理  ＜H26年度＞ ・生産・販売方法の改善 ・生産・販売数量管理(在庫管理)	【支援の状況】 ＜H25年度＞ ・県ふるさと寄付金の記念品追加への申し込み ・県のe-コマースに3商品を申込み  ＜H26年度＞ ・視察先の提案、各種研修・セミナー等参加の呼び 掛け ・「ものづくり地産地消・外商センター」「工業技術セン ター」を紹介、個別相談 ・新たな取引先との商談に使用するための資料作成 支援 ・FAX注文書の雛型を作成 ・「県こうちふるさと寄付金記念品」見積・納品・請求 書作成及び政策企画課へ納品  【成果等】 ＜H25年度＞ ・県ふるさと寄付金の記念品として追加された  ＜H26年度＞ ・地域内の他のグループの商品をセットにした贈答 用の商品を開発した(26年11月)。 ・贈答商品セットの販売を開始した(26年11月)。 ・販売先別の売上額の管理を開始した(26年10月)。 ・香美市まちづくり寄付金(ふるさと納税)の謝礼品と して採用された(26年6月)。
4	香南市 香我美町 西川地区	「ショウガ等」を使った加工品づく り	西川地区集落活動 センター推進協議会	「夢部会」内の「商品開発部」で、素材となる 特産品の絞り込みを行い、加工品の試作を開 始。		◎	【取組の方向】 ○加工品開発を行う(1品)。 ◆香南市と県の支援チームが常に情報共有を図り、住 民の取組を支援していく。  【課題】 ＜H25年度＞ ・加工品開発に参加する住民数の拡大  ＜H26年度＞ ・加工品の完成と販売開拓	【支援の状況】 ＜H25年度＞ ・地域づくりアドバイザーを紹介 ・農業創造セミナーへの紹介  ＜H26年度＞ ・栽培及び商品開発支援  【成果等】 ＜H25年度＞ ・ミカン、ショウガを使った加工品(ジャム、ドレッシン グ)を試作し、ジャムについては地元文化祭で試食 販売を実施。 ・農業創造セミナーに参加し、商品づくりについて学 習中。  ＜H26年度＞ ・農業創造セミナーに参加し、商品づくりについて学 習した。講師から温州みかんジャムは難しいとの意 見をもらうも、地元の特産品であるみかんでいくこと とした。 ・山北みかんジャムを香南市内のイベントや日曜市 などで販売した(26年10月～)。また、生姜の砂糖煮 を混ぜたみかんジャムを開発し販売した(27年1月11 日)。 ・高知工科大学と連携し、有用植物等を使った商品 開発に着手した。

## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【高知市地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
1	高知市 土佐山 中川地区	地区内の直販所「とんとんのお店」での地域農産物及び加工品の販売	(有)中川開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>●直販所で、野菜、果物、冷凍鮎、苗、堆肥の販売や、うどん、そば、アイスクリームなどの軽食を提供。</li> <li>●オーベルジュ土佐山への食材供給。</li> <li>●富士通トラベランスが社員旅行向け商品として、オーベルジュ泊・周辺周遊プランを検討中。</li> </ul>	☆		<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「とんとんのお店」は、土佐山地区の情報発信基地であり、地域の魅力や商品をPRしたい。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直販所の売上額は一定額で維持しているが、来客数が年々減少している。</li> </ul>	<p>【支援の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域イベント「清流鏡川棚田キャンドル」の実施に係るサポート。</li> <li>・集落活動センターの制度説明会を中山間地域対策課と連携して開催し、土佐町西石原への現地視察の実施。</li> <li>・H26地域づくり支援事業補助金(小さなビジネス)を活用して、店内の照明のリニューアルや冷蔵陳列ケースの導入を行い、売場の環境改善を図ることで売上拡大につなげていく。</li> <li>・県が締結した富士通との協定事業の一環として、土佐山地区の活性化を図ることとしており、その中で同直販所のあり方についても検討し今後改善を図っていく。</li> </ul> <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントへの来客に対する地域情報の発信についての協議に参画するなど、地域住民との結びつきが強化できた。</li> </ul>
2	高知市 鏡 吉原地区	<p>地域の特産品の販売 茶摘みやソーメン流しでの交流活動</p> <p>(指定管理者として、吉原ふれあい交流館、バンガロー、キャンプ施設を運営)</p>	吉原ふれあいグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「吉原ふれあい交流館」でうどん・吉原御膳の食事を提供。</li> <li>●田舎ずしや餅を市内の直販所「鏡むらの店」で販売。</li> <li>●管理施設で入込み客との交流活動(体験学習室・ふれあい交流室・キャンプ場を活用)。</li> <li>・ソーメン流し</li> <li>・茶摘み体験</li> <li>・マイ箸作り体験</li> <li>・田舎料理バイキング</li> <li>・イノシシ汁まつり(3/1開催予定)</li> </ul>			<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流活動に関する組織体制を維持していく。</li> <li>・(株)城西館の着地型旅行商品「とさ恋ツアー」の実績を積み、県外からの誘客に取り組む。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田舎ずしや餅は直販所での人気が高いが、売上増のため、新商品開発や既存商品の魅力度アップが必要。</li> </ul>	<p>【支援の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・里山御膳の旅行商品化に係る提案や各種調整。</li> <li>・猪肉を使ったメニュー検討に対するサポート。</li> <li>・H26地域づくり支援事業補助金(小さなビジネス)を活用して、新メニューのイノシシうどん用の大鍋や販売促進活動に使用する法被やのぼり旗を購入し、売り上げや交流人口の増加を図る。</li> </ul> <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・里山御膳が商品化され、とさ恋ツアー用と一般客用が完成した。</li> <li>・3月完成を目指して、新メニューの試作をおこなうことになった。</li> </ul>
3	高知市 鏡地区	狩猟した猪の食肉処理の共同実施及び共同販売	高知県中央地区猟友会 鏡支部	<ul style="list-style-type: none"> <li>●猟友会の会員が共同で食肉処理及び食肉販売を行っている。</li> <li>●従来のブロック肉に加え、スライス肉の販売を始めた。</li> <li>●鏡むらの店、土佐山の「とんとんのお店」での販売に加え、市内のレストラン等との取引が始まった。</li> </ul>			<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・猪の解体施設を整備し、猟友会の会員が共同で運営する。</li> <li>・安定供給や品質確保の徹底によりブランド化を図る。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品安全を充足する共同処理施設が完成したので、猟期に向けて販路を確保していく。</li> </ul>	<p>【支援の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年度高知県地域づくり支援事業費補助金を活用して共同食肉処理施設を建設するにあたり、高知市鏡地域振興課と連携して事業計画の作成等をサポートした。</li> <li>・H26地域づくり支援事業補助金(小さなビジネス)により、電動クレーンと精肉のスライサーを購入し、作業効率を向上させるとともに商品力を高めていく。</li> </ul> <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H25地域づくり支援事業補助金により、共同食肉処理施設を建設し、精肉の販売が開始された。</li> </ul>



## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【嶺北地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
1	本山市 沢ケ内	(しそジュース) ・汗見川地域の婦人達の手作りのしそジュース ・製造に使用するしそも生産 ・360ml、600円	汗見川生活改善 グループ	・生活改善グループが生産販売 ・生産量を確実に販売する仕組みづくりが課題	◎	○ (NO.28)	【取組の方向】 製造した商品を売り切る  【課題】 生産者が高齢化しており、原材料の安定的な確保及び加工場の老朽化等生産施設の整備が課題となっている。	【支援の状況】 清流館のPRを通じて、販売先の紹介(川村商店、さくら市、てんこす)などの支援  【成果等】 集落活動センターの視察者や清流館利用者へのPRができた。
2	大豊町 八川	(碁石茶おかし) ・碁石茶の粉末を加えたおかし、昔懐かしい素朴な味のお菓子。 ・道の駅大杉(町内)や大豊町農産物直販店(高知市)等で販売。 ・80g袋入り200円  (碁石茶あられ) ・もち米で作ったあられに、碁石茶や青のり、ヨモギをまぶした手作りのお菓子。 ・道の駅大杉(町内)や大豊町農産物直販店(高知市)等で販売。 ・150g袋入り350円	八川地区住民	・独自に販売先のルートを開拓し、また、大豊町ふるさと生産組合を通じた販売により、近隣の道の駅や大豊町農産物直販店(高知市)等へ出荷し販売している。 ・個人でやっており、惣菜等も製造販売している。 ・個人出荷で名前も一定浸透しており、生産した量は販売できている状況である。  ・手伝いで雇って欲しいという要望を受け、それに応えたいと思っているが、そのためには新たな販売先を獲得する必要がある。		○ (NO.5)	【取組の方向】 ・取り扱っていただけそうな販売先の情報収集、面会のアポ取りと初回の訪問に同行し、販売先開拓の糸口を作る。 →需要増に伴い、地域での雇用を増やす。 ・消費者や販売先のニーズを拾い、場合によっては、アドバイザー派遣等により、パッケージの見直しや、地域食材を活用した新たな商品開発により、商品のバリエーションを増やす。 ・需要が増え、現状の生産設備で不足するようになれば、生産施設の規模拡大を行う。  【課題】 ・新たな販売先を獲得するための営業活動において、相手方に話をする最初の糸口を見出せない。 ・パッケージのデザインや内容量、また、新たな商品開発など、専門家のアドバイスを求める手段を持ち合わせていない。	【支援の状況】 ・イベント等での販促支援などPRを実施。  【成果等】 ・生産した量は販売できており、売上も例年並みを維持。
3	土佐町 石原地区	(さめうら漬け) ・石原地区で採れた山菜を甘酢に漬けたもの。 ・道の駅さめうらやJA土佐れいほく店舗、直販所、イベント等で販売している。  (力漬け) ・石原地区の山菜とニンニクを甘酢に漬けたもの。 ・道の駅さめうらやJA土佐れいほく店舗、直販所、イベント等で販売している。	西石原生活改善 グループ	・生活改善グループが生産販売	◎		【取組の方向】 ・生産体制の確立等の検討  【課題】 ・西石原集落の生活改善グループの取組で、石原地区全体の取組でない。(他集落でも婦人グループの各々ある) ・メンバーの高齢化、固定化のため早急な生産量拡大は困難と思われる。 ・原料の確保に限界がある。	【支援の状況】 いしはらの里協議会直販部会を通じて活動の支援。イベント(よさく市)や店舗(さとのみせ)での販路拡大等。26年11月、直販所やまさとの市が完成し、グループでの惣菜販売等を含めて、積極的に活動している。  【成果等】 視察対応の際に、おみやげ品として購入されることも増えている。まさとの市でも、直販所全体で毎回10万円程度の売上が上がっている。一方で、今後の生産拡大には、グループの世代交代や参加拡大が必要である。
4	大川村	どんぐりのせんべい	大川村ふるさとむら 公社	大川村”どんぐり銀行”に送られてきたどんぐりの粉を使ったせんべい。現在は試作段階で、どんぐりの有効活用手段として、今後ふるさとむら公社で商品化・販売していく予定である。			【取組の方向】 商品化 パッケージ等の検討 製造(現在は隣のいの町旧本川で加工している。)  【課題】 ・原料となるどんぐりの確保 ・事業主体:現在は大川村ふるさとむら公社 ・製品の保管(生産時期に限られるため) ・販路の確保	【支援の状況】 村の補助で製造設備を整備  【成果等】 村内での製造が可能となった。

## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【仁淀川地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
1	いの町 上八川	棚田みそ 棚田育ちの塩麴 農家レストラン・弁当販売	なつめの木 〔中央地区 活性化協議会〕	・中央地区活性化協議会の活動の一部として、なつめの木のメンバー12人がH23年から生産を開始。「棚田みそ」のほか麦味噌、白味噌の試作を実施するとともに、H24年から「棚田育ちの塩麴」の加工をスタートし、塩麴を活用した和菓子の試作も行っている。 昨年度から不定期でお弁当販売を開始しており、本年度からは、7月から9月を除いて毎週火曜に弁当の製造販売を行っている。いの町内での予約販売であるが、1回あたり約50個の製造販売している。4月～6月末の売上は約31万円になっている。	☆	☆	【取組の方向】 ・県と町による支援体制の構築とアドバイザーの派遣などによる新商品の開発。 ・直販所や量販店への橋渡しにより販売量を増やす。  【課題】 ・安定供給のための生産体制の確立 ・体験メニューや農家レストラン開催する廃校と調理室との通路に段差等があり、料理搬入作業が危険 ・加工品等の貯蔵場所(冷凍庫)の容量不足	【支援の状況】 ・味噌を活用した新商品の開発や、道の駅「むささびの里」以外の販売先の検討会等に地域支援企画員が参加して、意向の確認と支援策を検討 ・塩麴について、興味を示した京都の食鳥販売・料理店にサンプルを送付 ・加工品(棚田味噌・塩麴)の保存対策、加工所設備の課題や農家レストラン開催時の課題について検討している。 ・観光政策課、観光コンベンション協会が都市農村共生・対流総合交付金事業で、外国人旅行者向けの体験メニュー開発のためのモニターツアーを実施 【成果等】 ・味噌については、消費者ニーズに対応するため、小さいサイズの製造を決定。 ・塩麴は、マンパワーが不足しているため不安定な生産状況であったが、増産に向けて、生産体制の目をたてることが出来た。 ・これまで農家レストランの開催を試行していたが、定期的に開催する方向を確認
2	いの町 上八川	ゆず味噌 珍味こんにやく	木の瀬生活改善 グループ	・いの町吾北上八川地区の木の瀬生活改善グループの女性8人が、平成3年頃から製造。 ・現在、いの町内の道の駅「むささびの里」で販売を行っているが、手作業のため生産量が安定していない状況。 ・道の駅むささびの里での珍味こんにやくの販売は、例年500個程度であるが、H25年度は930個の販売実績となった。 ・高知市内ホテルより珍味こんにやくをおつまみで提供したいとのオファーあり	☆	☆	【取組の方向】 ・県と町による支援体制の構築とアドバイザーの派遣などによる新商品の開発。 ・直販所や量販店への橋渡しにより販売量を増やす。 ・県内量販店に向けた庭先集荷への参入  【課題】 ・安定供給のための生産体制の確立	【支援の状況】 ・販売方法や生産体制の打ち合わせ会等に地域支援員が参加し、意向確認と支援策を検討している。 ・珍味こんにやく、ゆず味噌の包装等課題について検討している。  【成果等】 ・首都圏の量販店に珍味こんにやくのサンプルを渡して販売の可能性を打診
3	仁淀川町 沢渡	沢渡の茶大福	(株)ババ沢渡	・平成19年、仁淀川町にターンした男性が、沢渡地区で茶の栽培を開始。平成23年に専業農家となり、煎茶、紅茶をネット等で販売するとともに、茶葉を使った大福等の加工商品開発を進め、販売を強化している。  ・加工商品の主力となる大福は、OEMで毎月約3,000個製造。県内外約10店舗での販売に加え、平成26年より、香港の高級スイーツ店のトッピング材として納品を開始した。	☆	○ (NO.1)	【取組の方向】 ・商品の販売拡大を図るため、生茶葉を使った新商品開発を進める。 ・自前の加工所兼カフェづくりによって、生産体制の確立と、将来の雇用創出を目指す。  【課題】 ・茶葉は全国的に価格が右肩下がりで、利益が薄い。 ・専業農家のため、商品開発をスピーディに進められる時季が、秋冬に限られてしまう。	【支援の状況】 ・地域支援企画員から補助金等(緊急雇用、産振アドバイザー事業)の情報提供、補助申請の支援  【成果等】 ・H26.3.1に1名雇用(緊急雇用) ・H26.4.1に法人化 (個人事業者では、県外での販売に難) ・H26年度に産振アドバイザーの助言を得て経営計画の作成、新商品開発の企画を検討

## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【仁淀川地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
4	仁淀川町 別枝	いりもち (よもぎを使った地域伝統のもち)	秋葉生活改善 グループ	・平成7年、別枝地区の女性数名でグループを結成。地域の特産品である「いりもち」や味噌田楽等を製造し、地域イベントや街路市で販売している。地域伝統食のPRと、さらなる販路拡大を目指し、平成26年から、まるごと高知と販売にかかる商談を進めている。(販売内諾済)	☆	☆	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いりもち」に次ぐ新商品について、定期的に関係者や専門家を交え、事例学習とアイデア出しを重ね、開発を進めている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバー個々の組織に対する思いが様々であり、グループとしての方向性を定めるのに時間を要する。</li> </ul>	<p>【支援の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支援企画員が、別枝地区の地域づくりの一環として、商品開発に係る定例会への参加や、パソコン学習会の開催等を行っている。</li> <li>・新商品開発等のため、産業振興センターからのアドバイスや容器包装製造業者の紹介等の支援</li> <li>・H26地域づくり支援事業補助金(小さなビジネス)の申請に関する支援</li> <li>・製造工程の衛生管理徹底に関する支援</li> <li>・まるごと高知での販売に向けた支援</li> </ul> <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「商品開発検討会」の定期開催</li> <li>・H26.6 グループとしての総会を初めて開催(活動方針と26年度予算について協議)</li> <li>・H26地域づくり支援事業補助金を活用して、町が業務用冷蔵庫や豆腐製造機等を整備(予定)</li> <li>・県食品衛生協会の生菌検査結果の分析をサポート。衛生管理について中央西福祉保健所の指示を仰ぎ、製造環境を改善</li> <li>・H26.10 まるごと高知商談会に参加</li> <li>・H26.11 まるごと高知での販売開始に向け、食品表示アドバイス事業を活用して表示を見直し</li> <li>・H26.12 まるごと高知へ冷凍サンプル送付</li> </ul>
5	仁淀川町 上名野川	よもぎまんじゅう アメガの塩焼き等	上名野川生産加工 グループ	・よもぎまんじゅう、わさび漬け、アメガの塩焼き、生鮮野菜等を、地域イベントや量販店で販売。量販店とは半年単位で出店スケジュールを組んでおり、固定ファンの獲得とともに、売上の安定確保につながっている。	☆	☆	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の農産物や加工品を販売することで、地域活性化と今後の活動拡大につなげる。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人口減及びキーパーソンの不在により、マンパワーでの課題を抱えている。</li> </ul>	<p>【支援の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支援企画員が県内外のイベント情報提供を行うとともに、物品の購入及び関係団体との連携に関する相談等に応じている。</li> </ul> <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サニーマート(県内外)への出店を継続的に行う等、活動体制が構築されつつある</li> <li>・会員が、移住者等へグループへの参加を積極的に呼び掛け、マンパワーの一定維持につながっている。</li> </ul>

## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【高幡地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
1	須崎市 大間地区	手作り すさき味噌	JA土佐くろしお女性部	・JA土佐くろしおの吾桑、多ノ郷、上分地区の女性部が無添加と国産原材料にこだわった「手作りすさき味噌」を市内の直販所で販売している		○ (NO.47)	<b>【取組の方向】</b> ・研修への参加促進 ・アドバイザー派遣による商品のブラッシュアップ ・若手生産者の味噌作りへの参加による活性化  <b>【課題】</b> ・安定供給できる生産体制の構築	<b>【支援の状況】</b> ・補助事業等の紹介  (取組主体の動向) ・直販所統合後の需要に応じた生産体制の検討 ・自動発酵機整備検討  <b>【成果等】</b> ・販売額:998千円(25.1~12) 1664kg 販売所:直販所(みのり市、くろしお市、あさぎり市) JA土佐くろしお資材センター
2	中土佐町 大野見地区	七面鳥(冷凍保存) 細切れ(300g入り) パーベキュー串用 骨付きもも肉 等	大野見七面鳥 生産組合	・S50年代後半から生産に取り組んでおり、当初10戸で行っていたが、現在3戸で約300羽を生産 ・町内外のイベント販売、または飲食店、個人(クリスマス用に県内外発送)の注文販売を行っている。			<b>【取組の方向】</b> ・アドバイザーの派遣等による商品の磨き上げ ・直販所や量販店への橋渡しによる販路拡大 ・生産者の意識改革 ・地域産業としての位置付けのための地元雇用拡大  <b>【課題】</b> ・安定供給できる生産体制の構築 ・生産技術の向上、支援 ・販売単価の抜本的見直し ・七面鳥自体の知名度の向上	<b>【支援の状況】</b> ・真空パック機器の導入支援(H26地域づくり支援事業費補助金(小さなビジネス)活用) ・販路拡大への支援 3/26城西館への商談、5/20こだわり農産物商談会、10/22県庁生協商談、10/27まるごと高知キャラバン11/14はりま家商談、11/20県庁訪問販売  (取組主体の動向) ・旭日航空ホテル、ベイシャトー商談 ・大野見自然体験塾での提供(7/27久礼小児童、保護者約90人) ・少量パック商品の追加(久礼直販所) ・イベント等への出店 4/20アメゴ釣り祭、5/4~6大正町市場、7/26大野見荘祭り、8/13ほのぼの大野見夏祭り大会、10/10久礼大正町イベント、10/13空港物産、10/19大野見新米フェスタ、10/24~26ふるさとまつり、11/3米コメフェスタ、11/8台地祭り、11/16久礼門前市、11/29空港試食販売 ・取材対応 NHK(11/5、11/26)、ラジオキャラバン(11/11)、高知新聞(2回) ・クリスマス出荷(12/13さんさんテレビ)  <b>【成果等】</b> ・12月末売上高:382万円 ・真空パック機器の導入により、コスト削減が図られた。また、パック袋を刷新する際、販売価格の見直しを行った。 ・消費者が手軽に買求めできるよう、少量パック商品の追加や、希少部位の商品PRIにより、売上増につながった。 ・久礼直販所での地元消費の増加がみられる。 ・町内外の新たなイベントへの出店や、クリスマスシーズンでのPR強化による認知度の向上(さんさんTV「サタ・マガ」(ラ・ヴィータのメインディッシュ)で紹介され、新規購入につながるなど、マスコミの反響により問い合わせが多くなっている。) ・俵屋(高知市)との取引や高知空港での販売が開始した。

## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【高幡地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
3	梶原町 初瀬地区	鷹取キムチ(白菜、切り干し大根、チャーテ、ハクチ) 韓国風鷹取ドレッシング 焼肉のたれ	鷹取キムチの里づくり 実行委員会	・韓国との交流をきっかけに平成14年度から製造販売を開始。 ・県内ではサニーマートを中心に販売。ネット販売もあり。 ・地元高校生が育てたキャベツを使ったキムチを開発。	◎	○ (NO.35)	【取組の方向】 販路拡大  【課題】 生産量に余力があるものの、主に県内での販売にとどまっている。	【支援の状況】 ・イベント情報の提供  (取組主体の動向) ・隣町の愛媛県久万高原町の道の駅「天空の郷さんさん」(H26.4.26オープン)にて8月より鷹取キムチの取り扱いを開始。 ・9/14梶原グルメフェスタへの出店 ・11/3四万十町こめこめフェスタへの出店 【成果等】 ・各イベントで一定の売上をあげるとともにPRができた。 ・新規に愛媛県の道の駅にて取り扱いを開始した。
4	津野町 郷地区	里芋コロッケ、ズイキ料理、よもぎまんじゅう、山菜等地域の産品を使った加工品	郷地区活性化 検討委員会	・主にイベント等での販売となっている。	○		【取組の方向】 ・アンテナショップや直販所への出荷 ・集落活動センターにつながる取組として農家レストラン、仕出し、弁当、高齢者への配食サービス等の事業展開を模索  【課題】 ・安定供給するための体制や仕組みの確立 ・集落活動センター(加工場)建設に向けての合意形成 ・常時従事できる運営の体制作り ・集落活動センター施設整備	【支援の状況】 ・補助事業・アドバイザー制度・研修会等の紹介 ・イベント情報の提供及び開催支援 ・役員会・調理部会・総会・集落活動センター建設検討会等開催支援 ・地域おこし協力隊(地域担当)との連携支援 ・勉強会・研修会・視察・交流支援  (取組主体の動向) ・役員会・調理部会・総会・集落活動センター建設検討会開催 (4/18、5/7、5/21、7/8、7/16、7/18、7/23、8/25、8/29、9/30、10/10、10/21、11/5、12/2、12/17、12/18) ・清流保全パートナーズ協定事業(6/1長谷川・長沢の滝一斉清掃)、山の日推進事業(10/25不入溪谷ウォーキング)、出合いのきっかけ応援事業(11/8郷コン)開催 ・自主研修・視察等の実施(9/18、12/3)  【成果等】 ・調理部の組織体制の強化 ・加工技術(真空調理法)勉強会の開催及び里芋、ズイキ等の地場産品を活用した特産品の開発・試作 ・平成26年度津野町並びに商工会関係のイベントへの出店 ・集落活動センター加工部門創設の合意形成 ・集落活動センター施設整備に向けての実施設計 ・集落活動センター運営組織に向けての協議
5	津野町 久保川地区	味噌 焼肉のたれ 田舎寿司	久保川生活改善 グループ	・山の幸を活かした華やかな山菜・野菜のにぎり寿司は、昭和61年には「全国ふるさとのにぎり百選」に選ばれる。また、平成2年にはロサンゼルスで開催された高知県特産農産物フェアに参加し、「海を渡った田舎ずし」として評判になった。 ・グループの高齢化が進み、味噌については直販所等での通年販売であるが、焼肉のたれは夏期のみ、田舎寿司はイベント等での販売になっている。	☆		【取組の方向】 後継者が育つまでの事業の継続  【課題】 後継者の育成と機器の更新	【支援の状況】 ・補助事業・アドバイザー制度・研修会等の紹介 ・イベント情報の提供  (取組主体の動向) ・ふるさとセンター、満天の星等での味噌等の販売 ・イベントへの出店  【成果等】 ・郷地区活性化検討委員会調理部との交流

## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【高幡地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
6	津野町 船戸地区	ランチビュッフェ 地場産品による一品惣菜・仕出し弁当・皿鉢 配食サービス よもぎのおやき しそ茶	せいらんの里 (堂好海せいらん)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年4月に高知県の四万十源流センターの有償貸与を受けて「せいらんの里」として宿泊施設を運営する傍ら、高齢者に対する地域食材を使った一品惣菜の移動販売、最近では社協の委託を受けた配食サービスを月～金まで実施している。</li> <li>特に冬場は道路が凍結するため休業を余儀なくされることがあり、船戸地区の旧船戸小学校付近の空き施設や集会施設等で、移動販売・配食等の住民による福祉的な活動に関する事業を検討してきた(地域づくり支援事業による船戸地区活性化計画策定WS実施)</li> <li>WS後、40～50代の参画があり、これまで70代の高齢者を中心とした運営組織が活気づいてきた。</li> <li>雇用の場の確保や事業拡大するため、地域づくりアドバイザーによる支援を受け、施設の在り方を見直し、小規模改修を行い、平成26年4月よりランチビュッフェを始め、悪路・台風災害などの困難もあったが、4/7～12/31まで1,300名ほどの利用があった。</li> <li>予想以上の反響があり、当初週末だけの実施であったが、現在、予約を受けて毎日開催。ランチビュッフェの取り組みにより、弁当・仕出しの要望も増えている。</li> </ul>	☆		<b>【取組の方向】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>船戸地区地域づくり団体としての承認</li> <li>研修機会の提供などを通じた意欲の醸成により地域の協力者を増やす。</li> <li>安定的な運営</li> <li>地元雇用づくり</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>運営体制の強化</li> <li>調理関連機器の更新</li> <li>施設移譲(県⇄津野町)</li> <li>耐震化を含めた施設改修</li> </ul>	<b>【支援の状況】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>補助事業・アドバイザー制度・研修会等の紹介</li> <li>イベント情報の提供</li> <li>イベント開催支援</li> <li>船戸地区地域づくり団体再編への協力</li> <li>地域づくりアドバイザーの投入(6/4)</li> <li>マスコミへの働きかけ(高知新聞、おはようこうち等)</li> <li>地域づくりアドバイザーフォローアップ(10/8、10/14、10/31、1/14、3/1(予定))</li> </ul> (取組主体の動向) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントの主催・協力(茶畑ウォーキング、清流保全パートナーズ協定事業、四万十街道ひなまつり)</li> <li>イベントへの出店(3回)</li> <li>せいらんの里(宿泊施設)運営</li> <li>仕出し・弁当・配食サービス</li> <li>ランチビュッフェ</li> </ul> <b>【成果等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ランチビュッフェ(予約により毎日開催)による収益向上(4～12月 1,344名)</li> <li>組織が若返り、事業(ビュッフェ・仕出し・弁当・高齢者への配食サービス等)が拡大している</li> </ul>
7	四万十町 平串	ブルーベリージャム ブルーベリーシロップ	株式会社 サンビレッジ四万十	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブルーベリーの年間生産量(栽培面積20a)により商品化できる数量が限られている。</li> <li>昨年に引き続き、シロップを道の駅あぐり窪川へ販売しており、かき氷やアイスクリームに使用されている。</li> <li>ブルーベリージャムを使用した大福があぐり窪川で12月末に商品化されている。</li> </ul>	☆	○ (NO.9)	<b>【取組の方向】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>アドバイザー派遣等によるパッケージの改善や商品のブラッシュアップ</li> <li>注文生産できる販売先の確保</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>安定供給できる生産体制の構築</li> </ul>	<b>【支援の状況】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>講習会等の案内や補助事業の紹介(随時)</li> <li>産業振興センターや商工会などのコーディネーターを派遣</li> </ul> (取組主体の動向) <ul style="list-style-type: none"> <li>6月～8月 ブルーベリー園での摘み取り体験が好評(入園者H25:187人⇒H26:344人)</li> <li>ジャムの製造は6回(12月末現在)、道の駅あぐり窪川、四万十の蔵で販売。</li> <li>本年度は収穫量が多く、在庫の販路や製造先を探しており、産業振興センターや商工会などのコーディネーターを介しマッチングを実施。</li> <li>既存の取引先に加え、県内洋菓子店へ定期的に冷凍ブルーベリーを販売。</li> </ul> <b>【成果等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>H26年度は、ブルーベリー園での摘み取り体験に、老人ホームやケアハウスなどから来園があり客層が広がっている。</li> <li>四万十町の特産品として高知新聞(H27.1.14)に取り上げられるなどブルーベリーの認知度が上がってきている。</li> </ul>

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり

地域APの位置づけ: ○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【高幡地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
8	四万十町 本堂 四万十町 地吉	四万十しょうがのあまからに 四万十さいあい: 米豚、熟鶏、米豚+しいたけの 3種類を製造 五縁の会: しいたけの1種類を製造	四万十さいあい (武市由美)  五縁の会	・四万十町地域資源活用協議会(加工チー ム)で生姜を使用した商品開発を行った。 ・最終工程(真空パック)は四万十さいあいと 五縁の会が共同で実施している。		○ (NO.15)	【取組の方向】 ・アドバイザー派遣等による商品のブラッシュ アップ ・販売先の確保  【課題】 ・効率的な生産体制の構築	【支援の状況】 ・講習会等の案内や補助事業の紹介(随時)  (取組主体の動向) ・4種類×100パック、2ヶ月/回程度製造 ・販売先 町内の道の駅、みどり市、四万十の蔵、イベント販売 ・近隣の生産者から、しょうがのスライサーを借用し、作業の効 率化を図っている。(手切り4h×4人⇒スライサー1h) ・製造作業に慣れてきたことから作業効率があがっており、生 産量増加に向けて検討を開始。  【成果等】 ・定期的に生産を行い、直販所やイベントを中心に販売を行う ことができた。
9	四万十町 榊山	ときめき味噌	JA四万十女性部 ときめき家	・四万十町産大豆を使用した味噌で、冬から 春にかけて加工を行っている。		○ (NO.10)	【取組の方向】 ・アドバイザー派遣等による商品のブラッシュ アップ ・研修への参加促進  【課題】 ・安定供給できる生産体制の構築	【支援の状況】 ・講習会等の案内や補助事業の紹介(随時)  (取組主体の動向) ・自動発酵機整備(H26地域づくり支援事業費補助金(小さな ビジネス)活用)  【成果等】 ・味噌製造にかかる人員を確保するとともに、自動発酵機を12 月末に整備し本格的な生産を開始した。
10	四万十町 大正江師	なめらかプリン (プレーンタイプ、黒糖タイプ、生 姜入り) 米粉シフォンケーキ	株式会社 エコロジー四万十 (ウエル花夢)	・プリンは、添加物を使わず手作りしている。 ・シフォンケーキは、四万十町産の米を石臼 で挽いて米粉100%で作っているため、小麦 アレルギーでも安心して食べられる。 ・キャンプ場の業務の合間に、スタッフ2人で 週2回程度加工している。 ・スイートポテトやラスク、人参の菓子も試作 中で意欲がみられる。			【取組の方向】 ・アドバイザー派遣等による商品開発 ・直販所や量販店への橋渡しによる販路拡大  【課題】 ・夏場の生産体制の構築 ・販売先の確保	【支援の状況】 ・研修、アドバイザー、各種制度等の案内  (取組主体の動向) ・「しょうがのなめらかプリン」を四万十の蔵で販売開始。 ・夏場もウエル花夢でプリンを販売。 ・人参をつかった菓子を試作中。  【成果等】 ・四万十の蔵での定期販売に向けて調整を進め、生産拡大に 取り組むことができた。 ・新商品を四万十の蔵で販売開始するとともに、夏場もウエル 花夢でプリンの販売を継続できた。 ・サイクリングイベントや予土線記念イベントでプリンを70個完 売した。

## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【高幡地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
11	四万十町 地吉	くびったけ(柚・山椒・からし) 菓子パン 干し椎茸 しいたけ鰹煮 生姜の甘辛煮など	五縁の会	・主に「しまんとドラマ」を通して、道の駅四万十とおわ、しまんとの蔵で販売。 ・売上が伸び悩んでいる。		○ (NO.15)	【取組の方向】 ・直販所や量販店への橋渡しによる販路の拡大 ・研修等への参加 ・生産体制を確立  【課題】 ・商品のブラッシュアップ	【支援の状況】 ・研修案内、アドバイザー活用支援  (取組主体の動向) ・高南農業改良普及所の支援を受け、販売実績の振返り、原価計算、事業計画の再構築を開始。 ・直販所支援事業の活用し、商品の見直しに取り組んでいる。  【成果等】 ・アドバイザー活用を契機に、高南農業改良普及所の支援で事業計画の見直しに取り組むことができた。 ・アドバイザー導入により、くびつ茸商品の工夫、パン作りの頻度見直し、椎茸スライス等の新商品づくりに取り組むことができた。 ・よろず支援拠点へ相談したことにより、営業強化の必要性を認識できた。
12	四万十町 十和地区	からいジャン ゆず甘露煮 ゆずいもさん 柚酢 しいたけコロッケ など	(株)十和おかみさん市 加工部	・加工品部会で商品開発等の検討を重ねており、今後の方向性を模索中。消費者アンケート等の取組も必要。 ・他社と共有の加工場があり、使用に制限がある。 ・しいたけコロッケは、アンテナショップの売れ筋商品となっており、道の駅とおわでの販売を開始。 ・加工用の原材料が少ない時期があるため、ジャガイモ・玉ねぎ等の作付を増やすことが必要。			【取組の方向】 ・アドバイザー派遣等による商品開発 ・研修等への参加促進  【課題】 ・安定供給できる生産体制の構築 ・トラブル対応のスキルアップ	【支援の状況】 ・研修案内及び、定例役員会等への出席 ・直販所整備への支援 ・小規模事業所持続化補助金の活用案内  (取組主体の動向) ・直販所整備に向け、経営改善計画を作成するとともに、直販所支援事業を活用し、直販所に関するアドバイスを受けた。 ・小規模事業所持続化補助金及びアドバイザー活用し、新商品開発に取り組んだ。 ・農業創造セミナーへ参加し、イベント商品(蒸しパン)の改良に取り組んだ。  【成果等】 ・道の駅とおわでのバイキング(毎週水曜日、第4日曜日実施)が好評(毎回100人超)。 ・直販所整備に向けて、事業計画を作成した。(27年度実施予定) ・「椎茸タタキのタレ」を商品化するとともにレシピ集を作成した。 ・イベント商品(蒸しパン)について、新たな販売方法を考案できた。
13	四万十町 十和地区	しまんと新聞ばっぐ	NPO法人RIVER	・新聞バッグは、道の駅四万十とおわのレジ袋として使用され、自分で作成したい人向けの「レシピ付きバッグ」も道の駅や高知市のアンテナショップで販売している。 ・インストラクター養成講座の開催、全国公募の新聞バッグコンクールの展示活動などにより、日本国内だけでなく海外でも知られるようになった。 ・H26年度より町内外の企業等が連携したプロジェクトを立ち上げ、新聞バッグを全世界に発信しソーシャルビジネスへの取り組みを開始した。			【取り組みの方向】 ・ソーシャルビジネスモデルの開発 ・作り手と使い手の共感の普及  【課題】 ・販路の開拓 ・新聞バッグの作り手不足	【支援の状況】 ・活用可能な制度の紹介 ・プロジェクトチームへの参画  (取り組み主体の動向) ・プロジェクト会議の開催 ・普及活動(インストラクター養成、新聞バッグコンクール、イベントでの新聞バッグ活用)  【成果等】 ・県内でonedayイベントを実施するなど、普及に向けた新たな取り組みが展開された。(香美市、中土佐町) ・中山間地域での活動支援につながる取組が評価され、高知銀行地域経済振興財団から寄付が贈呈された。(H27.1月)

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり

地域APの位置づけ: ○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり



## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【幡多地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
1	宿毛市 中角	米の生産販売	農事組合法人 ファームなかつの	・米の貯蔵庫をH25年9月に設置。販売先は、 市内喫茶店や定食屋へ引き合いあり。		☆	【取組の方向】 ・米販売先を確保し、6次産業化による収益向上を図る。 ・米・野菜の加工品検討  【課題】 ・市外の米販売先情報が手元になく、販路拡大手段に 乏しい。	【支援の状況】 ・幡多農業振興センターと連携して、活動状況の 情報共有と情報の提供  【成果等】 ・農業振興部のH25補助事業を活用して、米の貯 蔵倉庫を整備 ・H26は自己資本で事務所を整備
2	宿毛市 沿岸部	「魚のすり身天ぷら」 「キビナゴ天ぷら」 「鯛めし」	すくも湾漁協 栄喜支所女性部	・女性部を中心に魚の加工商品を加工して販 売している ・販売金額 60万円/年	☆		【取組の方向】 ・主力商品の加工原価を低減し、収益向上を図る。  【課題】 ・収益の出る商品を安定して製造・販売する戦略を策定 し、推進する。 ・加工施設整備を希望しているが投資リスクが高い。	【支援の状況】 ・宿毛漁業指導所と連携して、活動状況の情報共 有と情報の提供  【成果等】
3	土佐清水市 三崎	「芋餅」の加工販売	JA高知はた 三崎支所女性部	・地域で収穫されるさつまいもが原料。 ・地域が持つ秘伝の製法と味を細々と伝承し ている。 ・取組主体はJA女性部であるが、系統外。 ・5～6人で市所有の施設を使い随時加工。 ・県内外問わず、主に受注販売だが、市内イ ベントでの出店販売や不定期ではあるが市内 道の駅でも販売。 ・口コミ等で知った客やリピーターへの販売が 主体。	☆		【取組の方向】 ・受注に対応できる安定した原料の確保 ・加工体制の充実  【課題】 ・販売(量)は、受注時の原料の有無に左右される。 ・加工体制及び商品の安全安心の向上	【支援の状況】 ・地域訪問等による活動状況の確認 ・支援制度の紹介  【成果等】
4	土佐清水市 松尾	郷土料理である「ツワブキの葉 を使った押し寿司」の販売  (また、押し寿司づくりを体験メ ニューとしても提供)	松尾さえずり会	・平成16年、地元有志や地区出身者らが集ま り会を発足。 ・5～6人で随時加工。(受注生産) ・地区内の祭や祝い事での受注が多く、また、 市内イベントでも出店販売。 ・活動範囲は市内レベル。			【取組の方向】 ・現在の活動の安定継続  【課題】 ・メンバーの高齢化(健康体力面)により、安定した人員 確保が困難な場合がある。 ・加工場の就労環境整備	【支援の状況】 ・市内イベントに出店する際の広報(チラシ配布 等)及び販売時の運営サポート ・地域資源を活用したイベント開催サポート ・体験メニュー受入サポート ・定例会参加(議事進行) ・活動の記録(通信)作成及び地区内配付 ・地域訪問等による活動状況の確認 ・支援制度の紹介 【成果等】 ・活動が継続(11年目) ・地元内での受注販売やイベント出店等を通じて 一定の売上を維持 ・原価率の見直しにより利益率が向上
5	土佐清水市 立石	「笹の葉を使った器」の販売 「きし豆茶」の販売(予定)	(株)山和淡水	・Iターン者が地域を元気(活性)づけたいとの 思いから活動を開始。 ・作業には地域内の特に高齢者が参加。 ・アルバイト感覚での参加であるが、高齢者の 生きがいづくりにもつながっている。 ・作業場には廃校舎を利用。 ・販売先は主に関東圏。 ※メダカの養殖(販売)やジャムの加工販売も 行っている。	☆		【取組の方向】 ・地域の収益活動へ。 ・コミュニティビジネスの確立⇒ 地域の自立へ ・移住促進や観光産業(交流人口拡大)への展開  【課題】 ・組織づくりが必要 ・収益活動が成立するだけの生産、加工、販売の体制 づくりが必要 ・拠点施設の整備が必要	【支援の状況】 ・地域訪問等による活動状況の確認 ・支援制度の紹介  【成果等】 ・活動(加工)の場として廃校施設を利活用

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり

地域APの位置づけ: ○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【幡多地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
6	土佐清水市 大岐	手作り味噌 手作り味噌を使ったタレ	大岐はまぐり会	・地域の婦人会が主体となり、手作り味噌を製造。 ・現在は第三セクターへの納品のみ。 ・今後の活動資金・機材などの購入を考え、活動の拡大を図りたい意向。(組織の体力づくりを図るため、利益幅が大きい自主販売に取り組む。)	☆		【取組の方向】 ・婦人会の経営基盤づくり ・地域の味噌作り文化の継承と担い手の育成  【課題】 ・商品パッケージの開発(磨き上げ含む) ・関連商品の開発 ・販売会に出店(販路開拓) ・資金の循環	【支援の状況】 ・支援制度の紹介 ・H26地域づくり支援事業費補助金(小さなビジネス)を活用。[商品パッケージ開発(磨き上げ)及び販促PR資材製作] ・地域おこし協力隊の協力により、販路開拓及び販売促進に取り組む中。  【成果等】
7	四万十市 西土佐口屋内	農家レストラン「しゃえんじり」の運営	しゃえんじり	・地域の女性グループ ・取組主体は「土佐の料理传承人」に選定されている。 ・害獣の有効活用(「シカ肉の加工品」等)に取り組んでいる。 ・主体となる活動は、農家レストランの運営だが、加工品の開発(シカ肉コロッケ等)にも力を入れており、特にシカ肉の有効活用に取り組んでいる。 ・仕入は「くろそんむら」(黒尊川流域の5集落で組織)など	☆		【取組の方向】 ・加工品のレベルアップ(品質やパッケージなどの充実) ・販路の確保及び拡大 ・シカやイノシシの料理法研究 ・レシピ本をつくる(後継者のために) ・原価計算ソフトを活用し収益を見込んだ経営(収入を1.5倍以上にする)  【課題】 ・加工場施設の充実 ・後継者の確保 ・原料となるシカ肉の安定的な確保 ・衛生的な環境づくり(バイキングの配置等)	【支援の状況】 ・農家レストランの運営状況等の把握 ・地域イベントでの販促の支援 ・イベントや販促に関する情報提供 ・施設の提供(四万十市)  【成果等】 ・「よさこいジビエ」に登場 (原料のシカ肉の確保については、シカ肉解体所を運営する「くろそんむら」との連携強化が必須であるため、くろそんむら」のシカの捕獲や解体の体制について課題解決に向けて協議中(四万十くろそん会議など)) ・味噌、ゆず皮味噌、甘露煮(梅干し、ゆず皮)商品販売開始(いちじょこさん市場で販売) ・農業セミナー受講(1/22農業セミナー研修成果発表) ・新ロイヤルホテル四万十で「にっぽん丸」乗客に昼食提供(80人)
8	四万十市 東富山	「コンニャク」 「干しシイタケ」 「ひがしやま」の生産製造販売	東富山を守る会	・H23農業創造セミナー参加をきっかけに、ひがしやまの商品化に着手したが、現状は農家が個々に製造しており、生産製造体制及び四万十ドラマと連携した販売体制を構築中。 ・市内の直販所で販売。	☆		【取組の方向】 ・ひがしやまの商品としての確立はしたが、小規模(共同:15a、6個人:約40a)であるので共同圃場に、さらに面積を増やしていく。  【課題】 ・機械や施設等の加工場を整備し、多くのものが参加できる仕組み作り。 ・安定した販路の確保。 ・イノシシ、シカ等の被害(防護柵等の整備)	【支援の状況】 ・取り組みの進捗状況の把握 ・補助制度等の情報提供  【成果等】 ・天神橋アーケードや市役所ロビーでの販売(毎週水曜日)を継続して市民に好評を得ている。 ・共同栽培による原材料の芋の生産を試行したことで、数品種による特性や課題などを整理することができた。前回の課題の芋の品種や商品規格統一の取り組みができた。
9	四万十市 三つ又	地元ゆずを使った商品 (柚子酢・濃縮ジュース・ポン酢等加工品を製造販売)	三つ又ゆず加工グループ	・市内直販所やイベントで販売。 ・高齢者が中心で十分な販促活動ができていない。	☆		【取組の方向】 ・販売先の拡大 ・後継者の育成 ・小夏の栽培(ハウス)開始  【課題】 ・高齢化による人手不足のため販促活動が不十分 ・ゆずの木の植え替え時期での人手不足、苗木購入 ・現在4世帯での生産であるので、早急な後継者の育成が必要。	【支援の状況】 ・ユズの収穫、加工品の製造・販売の状況の把握 ・イベントや販促に関する情報提供  【成果等】 ・販促活動に関する情報をもとに新たな取り組みを検討していく予定 ・ゆず加工品づくり体験(幡多農業高生)(商品を幡多農市で販売) ・ぎんなん祭り及び大月梅まつりでの販売活動 ・JAはた、サンリバー四万十での販売

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり

地域APの位置づけ: ○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【幡多地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
10	四万十市 西土佐江川中組	手づくりの「伝統豆腐」	西土佐中組 「絆の会」	・地域有志により豆腐の加工を開始。 ・地元の大豆を使って手づくりの伝統豆腐を再現、地域内で定期的に販売(主に予約販売) ・県内イベントで「ふわふわとうふ」を実演販売(とうふの新しい食べ方を提案) ・高齢者中心ではあるが体験交流などの取組も含めて意欲はある。			【取組の方向】 ・ふわふわとうふの販売量及び販路の拡大(道の駅等)(現在は、イベントでの販売や不定期ではあるが西土佐地域の小売店でも販売しているが、主に予約販売で月に3回ほど造る) ・おからパンを商品化するために研究中。  【課題】 ・とうふは消費期限が短いため、販売先が限定される。 ・加工場は新設されるが、生産効率向上及び加工品増のために、生産加工設備の充実。 ・原材料である大豆のを地域内での栽培	【支援の状況】 ・製造販売計画づくりへのアドバイス ・地域づくり支援事業補助制度 ・イベント等の支援及び情報提供 ・地域訪問等による活動状況の確認  【成果等】 ・おからかりんとうの商品化(イベントやふるさと市で販売) ・H26地域づくり支援事業費補助金による生産加工施設建築中(2月末完成予定) ・とうふは地元で人気商品になっており、主に予約販売をしている。
11	大月町 安満地	てんぷら (魚のすり身天ぷら)	満天クラブ	・道の駅をはじめ、地域イベントや高知市内等での店頭販売等を実施。 ・高齢化が進行			【取組の方向】 ・新たな販路拡大 ・世代交代(若者の参入)  【課題】 ・地道に活動を実施している。世代交代は新たなキーマンの出現が必要	【支援の状況】 ・宿毛漁業指導所、大月町役場と連携して経営状況の確認と要望に対する支援  【成果等】 ・大阪「土佐の宴」等に出店し、積極的に販促活動を実施・継続 ・調理施設整備の要望に対して、廃校調理室の利用調整を行い、商品加工を行っている。 ・商工会事業で視察研修を実施(H26)
12	大月町 柏島	てんぷら (魚のすり身天ぷら) アジのすり身ベースのコロッケ	柏島女性加工クラブ (漁協女性部)	・道の駅をはじめ、地域イベントや高知市内等での店頭販売等を実施 ・高齢化が進行 ・販売金額約479万円/H25			【取組の方向】 ・新たな販路拡大 ・世代交代(若者の参入) ・地域活動から経営的意識へ  【課題】 ・仲良しグループどまり ・組織の意識統一が弱く、地域づくり活動の意識が低い。 ・経営の悪化	【支援の状況】 ・宿毛漁業指導所、大月町役場と連携して経営状況の確認と要望に対する支援  【成果等】 ・道の駅で、毎週日曜日に天ぷら等を販売 ・商工会事業で視察研修を実施(H26)
13	三原村 下長谷、上長谷、 狼内、下切、宮ノ川	「どぶろく」の製造販売	どぶろく組合	・7軒の農家が自らの田の米で醸造。 ・甘口と辛口がある。 ・販売金額 約3,000万円/H24 ・正式名称は、「三原村濁酒特区」 ・三原村、商工会がバックアップしている ・各農家で販売し、全国発送もしている。イベントでの販売、牧野植物園や幡多の直販所へ出品。	☆		【取組の方向】 ・買い物拠点「みはらのじまんや」で、7軒の農家で作るどぶろくを販売する。 ・新たな販路開拓  【課題】 ・7軒のどぶろく農家がそれぞれの考え方をもち、一丸となった取り組みができていない。	【支援の状況】 ・どぶろくを使ったスイーツについて協議中  【成果等】 ・11/3 どぶろく農林文化祭へ出店(6,000人集客) ・11/16 宿毛市産業祭へ出店 ・3/9 土佐のおきやく「高知県のどぶろく大集合フェア」へ出店予定
14	三原村 袖ノ木	「三原硯」の展示販売	三原硯石加工 生産組合	・三原村農業構造改善センターで、2,000円～2,500円の文鎮、5,000円～60,000円の硯を展示・販売。 ・商工会のHPでは、5,000円～40,000円の硯を紹介。 ・品質の良い原材料は豊富にある ・村内(役場や農業構造改善センター)で販売されているが、イベントで出品されることもある。 ・生産者の減少	☆		【取組の方向】 ・販路拡大 ・後継者育成  【課題】 ・生産技術の継承 ・販売戦略の構築	【支援の状況】 ・原石切断機の更新へのアドバイス  【成果等】 ・ものづくり総合技術展への出展(11/20～22)

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり

地域APの位置づけ: ○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【幡多地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
15	黒潮町 佐賀	「潮風みかん」	森本みかん園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海の潮風と南向きの圃地で育った美味しいみかんとして地元では有名で、町内の直販所等で「潮風みかん」として販売している。</li> <li>・H26年度から、個人で「みかん狩り体験」の受け入れを行っている。</li> <li>・海の潮風と太陽に育まれて育った甘いみかんとして売り出しているが、愛媛県のみかんや県内の山北みかんなど、競合商品との差別化が十分に図れていない。</li> <li>・ハネものの活用ができていない。</li> </ul>			<b>【取組の方向】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幡多地域の直販所や量販店等への安定供給</li> <li>・ハネものを活用した加工品の開発・販売</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産量の拡大</li> <li>・品質の向上(商品力のアップ)</li> <li>・ハネものの商品化に向けた体制づくり</li> </ul>	<b>【支援の状況】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助制度等の紹介</li> </ul> <b>【成果等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サンリバー四万十等に出店するなど、一定の販路を確保している。</li> <li>・町にある道の駅「なぶら土佐佐賀」やJA直販所との販売契約を結び、H26.10月～販売を開始した。</li> </ul>
16	黒潮町 加持川	「米あめ」	ともこ工房	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔ながらの「薪炊き」にこだわり、原料は自家製の米と麦のみを使用し、手間暇をかけて、「米あめ」を作っている。</li> <li>・家族だけで製造し、主に町内の直販所や四万十市内での販売だが、高知市内(てんこす)やネットでも販売している。</li> <li>・平成24年度には、町の産振補助金を活用し、パッケージや値段の改定、都内への販促活動を行った。</li> <li>・集落活動センターの「特産品づくり・販売」の取組に位置付けられている。</li> <li>・こだわりの商品を扱う業者等からオファーもあるが、原材料の不足等から対応できていない。</li> </ul>	◎		<b>【取組の方向】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こだわりの商品として、県内外の小売店舗等での取扱いを目指している。</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産量の拡大(原料確保、設備整備の必要性等)</li> <li>・商品バリエーションの(固さ、形状等)の拡大</li> <li>・レシピ提案</li> <li>・食べ方提案等消費者への紹介・周知不足</li> <li>・(商品製造)技術の継承</li> </ul>	<b>【支援の状況】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助制度、関連研修会等の紹介</li> <li>・補助申請、商品台帳等資料作成の支援</li> <li>・商品製造販売計画づくりの支援</li> <li>・取組み推進のための対策検討</li> <li>・集落活動センター事業への支援とともに、販路開拓等への支援</li> </ul> <b>【成果等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業創造セミナー等へ参加(H24)し、商品や販売戦略などに関するアドバイスをもらったことで、ストーリー性のある商品づくりを心掛けるようになった。</li> <li>例:商品に添付する商品紹介の説明書の作成等</li> </ul>
17	黒潮町 浮鞭	「カツオギョウザ」の製造販売	千鳥ヶ浜工房	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内で採れるニラとカツオの端材を活用。</li> <li>・製造は主に家族で行い、販売は、「黒潮若手の会」等に依頼する場合がある。</li> <li>・現在は、主に、県内外のイベント及び町内の飲食店(2店)で販売をしている。</li> <li>・注文が多い場合は、ニラは端材では間に合わず、販売用の商品を活用することもある。</li> </ul>			<b>【取組の方向】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントでの販売だけでなく、幡多地域の飲食店等での取扱いの促進</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人手不足のため製造量に限界</li> <li>・商品認知度の向上</li> <li>・商品のバリエーションの検討</li> </ul>	<b>【支援の状況】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助制度等の紹介</li> </ul> <b>【成果等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内外のイベントに数多く出店し、観光客に大好評</li> <li>・西南大規模公園内の町有施設を活用し、飲食店の営業を開始(H26.3月～)</li> <li>・起業支援型地域雇用創造事業を活用し、3名の新規雇用(H26)</li> </ul>
18	黒潮町 佐賀	カツオのワラ焼きたたきの販売促進	県漁協佐賀統括支所 女性部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土佐佐賀の美味しいカツオのワラ焼きたたきを食べてもらおうと、平成12～13年頃から漁師のおかみさん達を中心に港岸壁にテントやテーブルを設置し、たたき作りのイベント等を開催していた。</li> <li>・地元や県内だけでなく、県外の人達にもそのおいしさを知ってもらい、地元への交流人口を増やそうと、現在は年間通じて県内や岡山県、大阪府等県外の各種イベント等で実演販売活動を行っている。</li> <li>・平成25年度には、「まるごと高知」でテストマーケティングを行った。</li> </ul>		○ (NO 35)	<b>【取組の方向】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外の各種イベント等での実演販売出展への活動支援</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・売上の向上</li> <li>・活動を行うスタッフの高齢化(世代交代)</li> </ul>	<b>【支援の状況】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助制度等の紹介</li> <li>H26地域づくり支援事業費補助金(小さなビジネス)の交付決定を受け、県外(東京、大阪)への販促促進費及びイベント出展等で使用する冷凍ストッカー等の備品を購入した。</li> <li>・イベント等の運営支援</li> </ul> <b>【成果等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外でのカツオのワラ焼きたたきの実演販売は人気があり、継続して参加している県外のイベント等では、固定客がついている。</li> </ul>

## 「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【幡多地域本部】

No.	市町村・地区名	取組の概要 (主要商品等)	取組主体	取組の現状	集落活動 センター との関連性	地域APの 位置付け	取組の方向と課題	支援の状況
19	黒潮町 佐賀	小魚の加工品の製造販売	土佐佐賀くろしお工房	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年10月から、閉園した保育所を活動拠点として活動を開始した。</li> <li>・メンバーは、底びき網漁業者の家族(妻や兄妹)で構成。</li> <li>・漁獲量は比較的多いが、単価の安い魚をみりん干しやフライ、から揚げ用等へ加工製造し、販売を行っている。</li> <li>・メンバーによる個別訪問販売や、地元の道の駅、首都圏の水産卸・販売業者、県内外の居酒屋、各種イベントでの出展販売を行っている。</li> <li>・平成24年5月に、6次産業化における総合化事業計画の認定を受けている。</li> </ul>			<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・売上の拡大に向けて、既に具体化している県内外の取引先との取引を継続していくとともに、新規顧客の開拓を目指す。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・売上の向上</li> <li>・商品の品質管理</li> <li>・イベント販売の強化</li> <li>・人件費の向上</li> </ul>	<p>【支援の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助制度等の紹介</li> <li>・H26地域づくり支援事業費補助金(小さなビジネス)の交付決定を受け、県外(岡山県津山市)への販売促進費及びイベントで活用するフライヤーや夏場の品質管理向上に向けて、冷凍庫等を購入した。</li> </ul> <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで多くのイベント等に出展してきたことで認知度が向上し、多くのリピーターの獲得に成功している。</li> <li>・イベントで繋がった顧客と取引が始まった事例もある。</li> <li>・1回のイベントにつき、数万円から多いときで20万円以上の売上有る。</li> </ul>